

地域における医療介護職協働 在宅看取りケア研修事業 報告

今年度実施地域：京田辺市、右京区、上京区、中京区、宇治市、西京区



中京区では10月5日（土）に京都市市立病院で実施しました。

参加者は合計50名。訪問看護師18名、介護支援専門員9名、ヘルパー8名、地域連携室11名、その他（医師・MSW・病棟看護師・看護教員・老人福祉員）4名の様々な職種の方にお集まりいただきました。

利用者様、ご家族の「最後は自宅に帰りたい」という希望をかなえていくには、私たちはどう向き合い、どう考え、どう働きかけたらいいのか…。

『地域の連携で乗り切れた在宅看取り』をテーマとして、在宅ケアにかかわった人たちのお話を参考に、それぞれの立場からいろいろ考え、みんなで意見交換をしながらお互いの理解を深めました。



令和元年度 京都地域包括ケア推進団体等交付金事業
「家で最期まで生きる」を支えるための多職種研修

【テーマ】
地域の連携で乗り切れた在宅看取り

日時 令和元年10月5日(土) 14:00~16:30 受付13:30~
場所 京都市立病院 北院7階小ホール

「最後は自宅に帰りたい」という希望をかなえたい。
そのためにはどうしたらいいのか。関わった地域の人たちの話を参考に、色々な方法を考えてみたいと思います。

| 対象者 | プログラム |
|--|---|
| ▶中京区の訪問看護事業所に従事する訪問看護師、在宅介護支援専門員に就任する介護支援専門員、訪問看護ステーションに就任する看護師、病棟の地域連携などに従事する看護師、ケアマネ、在宅医療 ▶京都府内で働く在宅に関わる職種 | ▶14:00 「在宅看取りで民生も良しや困った在宅看取り」 事例発表：訪問看護ステーション すばる 看護師 南田 真代 ▶14:30 「地域連携室 訪問看護部の役割で在宅看取り 在宅看取り」 司会発表：京都府立病院 地域連携室 看護師 船田 千賀子氏 |
| 定員 80名 ▶先着順 | ▶15:00 交流会 ▶16:15 まごめ |
| 問い合わせ ▶訪問看護ステーション すばる 住所：川上 TEL：075-4408-1341 | |

主催：一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会

はじめに、京都市立病院地域連携室の飴田看護師さんより「チームで行う退院支援」のケースの紹介。退院前の多職種カンファレンスの意義や効果、退院後の訪問も行うことで、終わらない関りが利用者方や多職種にとっても安心を与え、信頼関係と密な連携が看取りにつながったことをお話されました。

続いて訪問看護ステーションより「急な退院で老人福祉員から依頼された在宅看取り」でケースを紹介。急な依頼から始まり、対応に悩みながらも多職種で連携を取りながらお看取りまで行えたケースを紹介。老人福祉員さんやヘルパーさん、医師にもその時の関りやおもいなどお話していただきました。

老人福祉員さんのお話には説得力があり「普段、人との関りを避けている人、周りが避けている人ほど何う意味があります。真実はその中にあるんです。そういう人（お宅）こそ問題が隠れており誰かが入っていかないと、その人たちは救われないのです。」と語られ、どれだけたくさんの地域の人の支えや助けになってくれたのか、とても心に響くことばでした。



▶受講者アンケートより（抜粋）

＜ヘルパー＞

* 多職種で話し合え、日ごろ困っていることや、注意していることなど聞く機会となり、とてもありがたかった。今後も機会があれば参加したい。

＜地域連携＞

* 事例を通して、キーパーソンを支えるサポーターが広がり、ご家族の人生を豊かにできる地域スタッフが多いことを改めて心強く思った。

＜ケアマネ＞

* 多職種間の話し合いが良き時間となり、講義の学びより皆さんの心の中に入った研修となったように思います。

＜MSW＞

* 患者様が退院されたあとの在宅での生活のリアルなようすを垣間見ることができました。支援されている方の生の声が聞けて勉強になった。

＜看護師＞

* 多職種の方と色々話を聞くことができ、協力しながら在宅での生活を支援することができたらよいと思った。

発表後に質問の時間をとったあと、多職種間でグループワークを行いました。普段、なかなか接することの少ない職種の方々とざっくばらんに話し合うことで、それぞれの職種のおもいや、見えなかった役割がわかり、みえる連携につながったような時間でした。

特に地域連携室とヘルパー間の意見交換は新鮮だったようで「話す機会がなかった分、貴重な意見が聞けて有難かった。」という意見も多かったです。

改めて各職種の連携の必要性、課題も見え、今回の縁を大切に、今後のよき看取り、よき在宅につなげていける研修となりました。

